

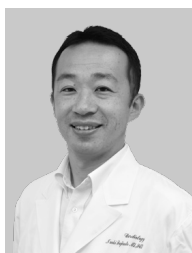
日本心臓リハビリテーション学会 第8回東海支部地方会

会長 藤本 直紀 (三重大学大学院医学系研究科 循環器・腎臓内科学)

会期 2022年12月3日(土)

会場 WINC AICHI
〒450-0002 名古屋市中村区名駅4丁目4-38
TEL 052-571-6131

ご挨拶

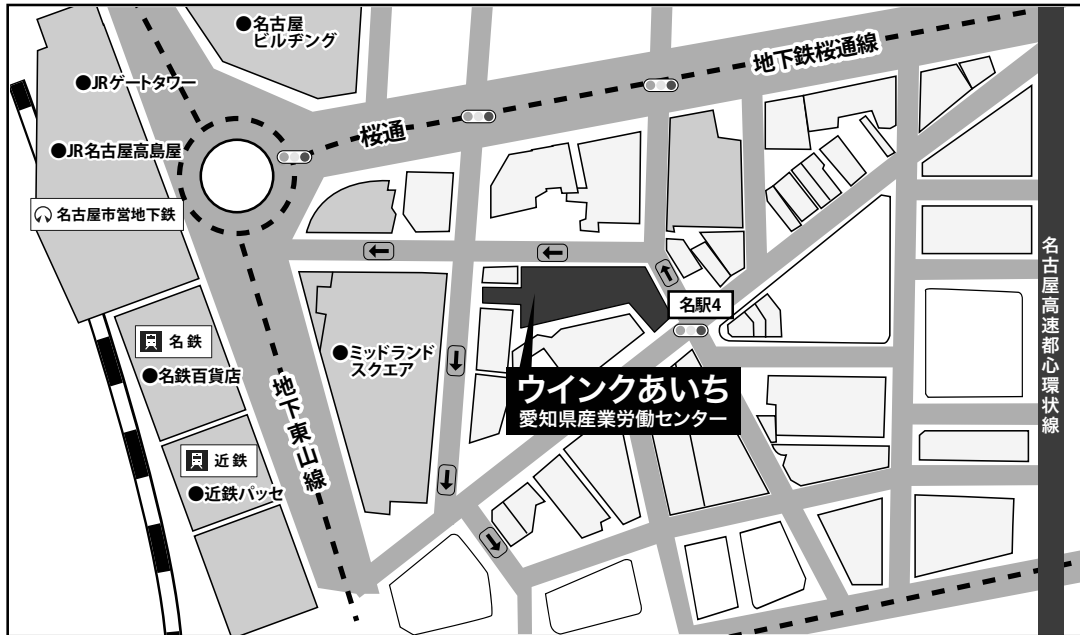


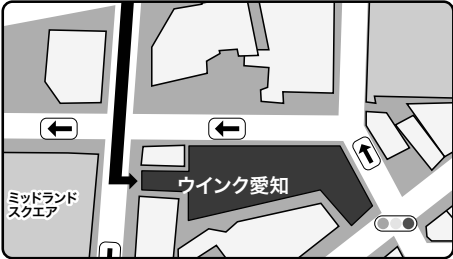
日本心臓リハビリテーション学会第8回東海支部地方会
三重大学大学院医学系研究科 循環器・腎臓内科学
会長 藤本 直紀

このたび日本心臓リハビリテーション学会第8回東海支部地方会の会長を務めさせていただきます三重大学の藤本です。2019年末からのCOVID-19感染症の蔓延により2020年の本会は延期に追い込まれましたが、エビデンスに基づく感染対策・ワクチン・治療薬についての科学的知見を集積させることにより、我々の社会経済活動や学術的活動が再開可能となってきました。今回の地方会では、感染予防に最大限の配慮を払いながら、ウイック愛知で現地開催させていただくことを、ご報告させていただきます。開催にあたりまして、ご協力をいただきました皆様に心より感謝を申し上げます。

さて、本会のテーマを「地域でつなぐ心臓リハビリテーション」とさせていただきました。心臓リハビリテーションは、急性期、回復期、維持期に区分され、その中でも生涯にわたる予防を見据えると維持期の運動療法を含めた生活指導が重要です。コロナ禍に集団型外来リハビリの継続が困難となったことやオンラインミーティングがコロナ禍に普及・定着したことから、在宅型の心臓リハビリテーションへの期待も高まっております。しかし、このような次世代型の心臓リハビリテーションを軌道にのせるためには、今まで以上に地域病院間、医療従事者間、医療従事者と患者・家族間で情報を共有し、しっかりと“つなぐ”ことが必要となってきます。今回、三重県の評議員の先生方の発案でコメディカルセッション（地域でつなげるための心臓リハビリの取り組みと課題）を設け、東海4県の施設における取り組みについて報告いただきますので、是非、ご来場ください。本地方会に於いて得られた情報が、皆様の日常臨床や地域医療をより充実させ、地域社会の心臓病患者の予後やQOLを改善させるきっかけになれば幸いです。

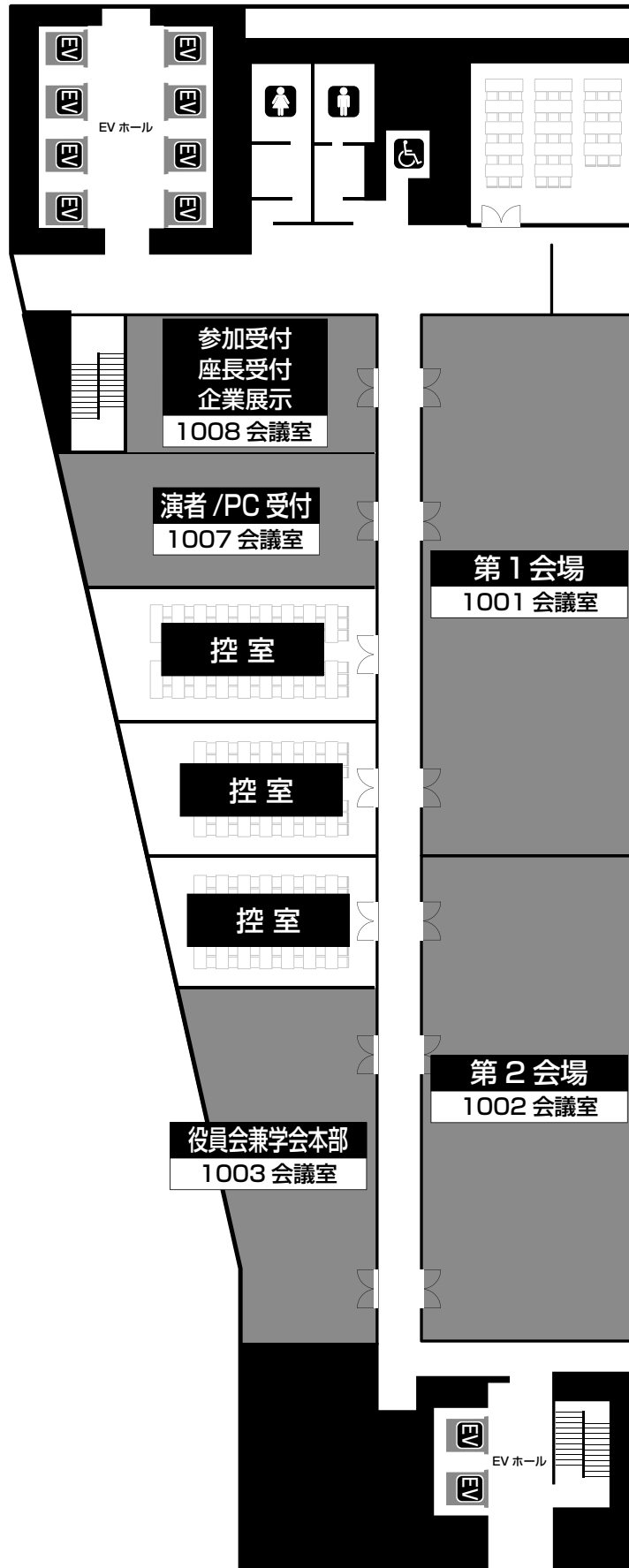
交通案内



<p>電車をご利用の場合</p>	<p>(JR・地下鉄・名鉄・近鉄)名古屋駅より</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎JR名古屋駅桜通口からミッドランドスクエア方面 徒歩5分 ◎ユニモール地下街 5番出口 徒歩2分 <p>JR(東海道新幹線)をご利用の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎東京…約100分 ◎新大阪…約50分
<p>お車をご利用の場合</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎名古屋高速都心環状線「錦橋」出口より約10分 駐車場…収容台数123台(有料:1日1,200円) ※台数に限りがございますので公共交通機関をご利用ください。 ◎駐車場入り口は会場西側(ミッドランドスクエア側)よりご入場ください。 ※下記図面参照 

会場案内

10F フロア



ご来場の先生方へ

参加者の皆様へ

1. 参加費・参加証他について

- ◆参加者は参加費、会員 ¥3,000、非会員 ¥4,000 をお支払いの上、参加証をお受け取りください。
参加受付：10F 1008 会議室 日時：12月3日（土）8：30～
- ◆会場内では、必ず参加証を着用してください。
- ◆コロナウイルス感染予防対策の観点から、体温確認及び来場署名のご協力をお願いいたします。

2. 心臓リハビリテーション指導士、認定医、上級指導士の単位登録について

- ◆参加受付の際、単位票をお渡しいたします。
必要事項をご記入の上、会期中に指導士単位受付までご提出ください。
- ◆後日のご提出や代理の方のご提出は認めておりませんので予めご了承ください。

3. 企業展示・クローク・託児所について

- ◆企業展示を 10F 1008 会議室に準備しておりますので、お立ち寄りください。
- ◆今回、クロークおよび託児所はございません。

東海支部役員・評議員の先生方へ

- ◆12月3日（土）8：15～8：40 支部役員会（10F 1003 会議室）
- ◆12月3日（土）8：50～9：15 支部評議員会（10F 1001 会議室（第1会場））

座長の皆様へ

- ◆ご来場されましたら、参加受付付近の座長受付に必ずお立ち寄りください。
ご来場の確認をさせていただきます。
- ◆担当セッションの15分前には、次座長席にご着席ください。
- ◆進行を一任いたしますので遅延のないようご協力ください。

演者の皆様へ

発表について

※本地方会の発表は、全て口頭発表とさせていただきます。

- ◆発表時間 口頭発表7分、討論3分。
- ◆発表形式 発表は液晶プロジェクターを利用し、Power Point のみになります。
- ◆スクリーンサイズ 16：9
- ◆発表者ツールの使用はできません。
- ◆当日の流れ

・発表30分前までを目途にPC受付（10F 1007 会議室）にて、発表ファイルの動作を確認して頂きます。
その際に、係員がお預かりしたデータを主催者側のPCにコピーいたします。

・受付での時間のかかる編集はお断りします。予め編集が必要であればご自身のPCをご用意ください。
また受付後、編集をされた際は、もう一度受付をしてください。

・発表データの受付のあと、発表10分前までには会場内の次演者席付近にてお待ちください。
COIスライドを用いて開示をお願いいたします。

- ・発表は演台のマウスおよびテンキーを使用して頂きます。
 - ・演題の発表の順番が来た時には最初の画面を用意しております。原則として発表者にスライド操作して頂きます。また演台にレーザーポインターを用意しておりますので使用してください。
- ※コピーされたデータは学会終了後、主催者側で責任を持って消去いたします。

◆ファイルの作成

- ・持ち込むデータは、必ず事前にウイルススキャンを行ってください。
- ・データは PowerPoint 2010 ～ 2021 のいずれかで作成ください。
事前にデータを作成した PC 以外で正常に動作するか、ご確認ください。
- ・Macintosh PowerPoint で作成されたファイルには拡張子 (.ppt) を付け、Windows で動作の確認をしてください。
※ Macintosh PowerPoint での発表となる場合は、ご自身の PC を持参ください。
- ・スライド枚数は制限しませんが、発表時間を考慮して作成してください。
また全容量は 10MB 以下としてください。
- ・アニメーション、動画はトラブルの元ですのでできるだけ使用しないでください（どうしても発表に効果的と考えられる場合はご自身の PC をご持参ください）。また、音声のご利用はできません。
- ・フォントは文字化けを防ぐために標準フォントを使用してください。
(日本語フォント：MS 明朝、MS ゴシック、MSP 明朝、MSP ゴシックなど。
英語フォント：Arial、Century、Times、Times New Roman、Helvetica、Symbol など)。
- ・データのファイル名は「会場名」「演題番号」、「発表者の氏名(漢字)」の順で名前をつけて保存してください。
例) ○-1 環境太郎.ppt

◆動画のない発表

発表データは USB フラッシュメモリにてご持参ください。

- ・USB フラッシュメモリには当日発表されるデータのみ保存してお持ち込みください。
発表データ以外はいれないでください。

◆動画のある発表

原則としてご自身の PC をお持ちください。

- ・プロジェクターのコネクタは、HDMI、D-sub15 ピンです。
- ・動画を使用される方は実際にお持ち頂く PC で再生できることを必ず事前にご確認ください。本体の液晶画面に動画が表示されても、PC の外部出力に接続した画面には表示されない場合があります。お持ち頂く PC ではない別の PC で作成された動画は、再生できない場合がありますのでお気をつけください。
- ・お持ち頂く PC の電源ケーブルを必ずご持参ください。
- ・音声のご利用はできません。
- ・スクリーンセーバー、ウイルスチェックならびに省電力設定は予め解除してください。
- ・起動時にパスワードの設定をされている場合は、確認させていただきます。
- ・トラブル時の対応用として発表用データのバックアップを取らせて頂きます。ご了承ください。
尚、バックアップのデータに関しましては、学会終了後破棄させていただきます。
- ・発表 30 分前までには、必ず PC 受付にお越しください。PC の試写・通過確認等させていただきます。
PC の試写・通過確認後、ご発表 15 分前までに発表会場内のオペレーター席にて接続確認をしてください。
ご発表後、オペレーターよりご自身の PC をお受け取りください。なお、お持ち頂く PC に保存されている貴重なデータの損失を避けるため、必ず事前にデータのバックアップをしてください。

日程表

	第1会場 1001会議室	第2会場 1002会議室	企業展示 1008会議室
8:00			
8:30			
9:00	8:50～9:15 東海支部評議員会	受付	8:30～17:00 東海支部役員会のご案内 8:15～8:40 (1003会議室)
9:30	開会の辞		
10:00	9:30～10:30 一般演題① (6題) 心不全 0-1～0-6 【座長】平敷 安希博/榎村 祐介	9:30～10:30 一般演題⑤ (6題) 心肺運動負荷試験 0-20～0-25 【座長】西垣 和彦/河野 裕治	
10:30			
11:00	10:40～11:30 一般演題② (5題) 心リハ・新たな取り組み 0-7～0-11 【座長】山下 豊/横家 正樹	10:40～11:30 一般演題⑥ (5題) 外科術後 0-26～0-30 【座長】築瀬 正伸/渡邊 崇量	
11:30			
12:00	11:50～12:40 ランチョンセミナー① ATTR 心アミロイドーシス診療の現状 【座長】藤本 直紀 【演者】山野 哲弘 【共催】ファイザー株式会社	11:50～12:40 ランチョンセミナー② ペリキュポが活きる心不全の心臓リハビリテーション 【座長】土肥 薫 【演者】安達 仁 【共催】バイエル薬品	
12:30			
13:00	12:50～13:50 コメディカルセッション 「地域でつなげるための心臓リハの取り組みと課題」 【座長】辻 聡浩/中立 大樹 【演者】水谷 元樹/田邊 剛史/ 上嶋 良/瀬古 博正	12:50～13:50 コメディカルセッション ※中継会場	企業展示
13:30			
14:00	14:00～14:40 一般演題③ (4題) 急性期・入院リハビリ 0-12～0-15 【座長】清水 真也/廣瀬 聡彦	14:00～14:40 一般演題⑦ (4題) フレイル・心理 0-31～0-34 【座長】昆野 雄介/高尾 昌資	
14:30			
15:00	14:50～15:30 コーヒーブレイクセミナー 運動負荷で心不全の病態に迫る - 血圧管理の重要性を含めて - 【座長】北村 哲也 【演者】瀬尾 由広 【共催】第一三共株式会社	14:50～15:30 コーヒーブレイクセミナー ※中継会場	
15:30			
16:00	15:40～16:20 一般演題④ (4題) 回復期・外来リハビリ 0-16～0-19 【座長】飯田 有輝/熊谷 直人	15:40～16:30 一般演題⑧ (5題) 心リハ運営・地域連携 0-35～0-39 【座長】柴田 賢一/清水 美帆	
16:30	16:20～17:20 チーム医療セッション 地域で取り組もう！心不全患者の療養支援 【座長】石原 真由美/原 康貴 【演者】矢ヶ崎 裕人/下郷 卓史/ 天野 裕香/東田 雪絵		
17:00	閉会の辞		
17:30			

プログラム

■お断り

原則的に講演者が入力したデータをそのまま掲載しておりますので、一部施設名・演者名・用語等の表記不統一がございます。あらかじめご了承ください。

座長：辻 聡浩（鈴鹿中央総合病院）
中立 大樹（伊勢赤十字病院）

地域でつなげるための心臓リハビリの取り組みと課題

1 心臓リハビリテーションでつながる・支援する病診連携

水谷 元樹（愛知県 一宮西病院）

2 回復期心臓リハビリの現状

田邊 剛史（岐阜県 岐阜ハートセンター）

3 当院の心不全地域連携への取り組み

上嶋 良（三重県 松阪中央総合病院）

4 心疾患患者に対する訪問リハビリテーションの取り組みと今後の課題

瀬古 博正（静岡県 おもて循環器科）

座長：石原 真由美（岐阜県総合医療センター 看護部）
原 康貴（岐阜ハートセンター 心臓リハビリテーション室）

地域で取り組もう！心不全患者の療養支援

1 急性期病院：医師の立場から 当院の多職種心不全チームの軌跡

矢ヶ崎 裕人（岐阜ハートセ岐阜県総合医療センター 循環器内科センター 心臓リハビリテーション室）

2 地域医療機関：医師の立場から クリニックレベルの心不全チームは何を求められていて何をすべきなのか

下郷 卓史（四日市内科ハートクリニック）

3 地域医療機関：看護師の立場から 心不全患者の ACP を実現するために地域医療をどのようにデザインしていくか

天野 裕香（千手堂病院 法人本部長兼院長補佐）

4 訪問看護師の立場から 心不全患者の在宅療養における訪問看護師の役割

東田 雪絵（心不全患者の在宅療養における訪問看護師の役割）

ランチョンセミナー①

第1会場 (1001 会議室) 11:50 ~ 12:40

座長：藤本 直紀 (三重大学大学院医学系研究科 循環器・腎臓内科学 講師)

LS1 ATTR 心アミロイドーシス診療の現状

山野 哲弘

京都府立医科大学附属病院 臨床検査部／循環器内科学内 講師

共催：ファイザー株式会社

ランチョンセミナー②

第2会場 (1002 会議室) 11:50 ~ 12:40

座長：土肥 薫 (三重大学大学院医学系研究科 循環器・腎臓内科学 教授)

LS2 ベリキューボが生きる心不全の心臓リハビリテーション

安達 仁

群馬県立心臓血管センター 副院長

共催：バイエル薬品株式会社

コーヒーブレイクセミナー

第1会場 (1001 会議室) 14:50 ~ 15:30

座長：北村 哲也 (鈴鹿中央総合病院 院長)

CBS 運動負荷で心不全の病態に迫る – 血圧管理の重要性を含めて –

瀬尾 由広

名古屋市立大学大学院医学研究科 循環器内科学 教授

共催：第一三共株式会社

座長：平敷安希博 (国立長寿医療研究センター 循環器内科)
植村 祐介 (安城更生病院 循環器内科)

1 外来心臓リハビリテーションが有効であった再発性の重症三枝病変を有する虚血性心疾患の1例

○溝口達也、新谷康広、北田修一、瀬尾由広
名古屋市立大学大学院医学研究科循環器内科学

2 周術期に心臓リハビリテーションを実施した弁膜症患者の退院遅延因子の検討

○伊東利一¹⁾、堀 真輔¹⁾、亀田一成¹⁾、清水美帆¹⁾、庄村 遊²⁾、百崎 良³⁾
三重大学医学部附属病院 リハビリテーション部¹⁾、同心臓血管外科²⁾、同リハビリテーション科³⁾

3 肺炎を合併した心不全症例における特性の検討

○伊藤正樹¹⁾、辻 聡浩¹⁾、佐々木祐磨¹⁾、山田高士郎¹⁾、伊神明良²⁾、渡邊清孝²⁾、
太田覚史²⁾、北村哲也²⁾
三重厚生連 鈴鹿中央総合病院 リハビリテーション科¹⁾、同循環器内科²⁾

4 起立負荷自律神経測定がトランスサイレチン型心アミロイドーシス診断の一助として使用できた1症例

○山岸純也¹⁾、渡邊崇量^{2,3,5)}、安藤貴洋¹⁾、松尾紗織¹⁾、鮫島友樹¹⁾、磯部良太¹⁾、
成瀬元気^{3,4)}、吉田明弘³⁾、山本沙央里³⁾、吉田珠美³⁾、石黒まや³⁾、大倉宏之^{2,3,5)}
岐阜大学医学部附属病院 リハビリテーション部¹⁾、同検査部²⁾、同循環器内科³⁾、
同高次救命治療センター⁴⁾、岐阜大学大学院医学系研究科循環器内科学⁵⁾

5 LVAD 植込み後遠隔期における運動耐容能の検討

○風間信吾¹⁾、坂本 岳¹⁾、伊藤亮太¹⁾、小山雄一郎¹⁾、木村祐樹¹⁾、伊田匡志²⁾、
瀬上捺稀²⁾、藤原聖矢²⁾、吉戸菜摘²⁾、高木大地²⁾、小林聖典²⁾、平岩宏章¹⁾、
近藤 徹¹⁾、森本竜太¹⁾、六鹿雅登³⁾、室原豊明¹⁾
名古屋大学大学院医学系研究科循環器内科学¹⁾、名古屋大学医学部附属病院 リハビリテーション部²⁾、
名古屋大学大学院医学系研究科心臓外科学³⁾

6 重症心不全に対する ASV 導入が運動時周期性呼吸軽減に有用であった1例

○永井敬志¹⁾、原 康貴¹⁾、久世洋嗣¹⁾、瀧野皓哉¹⁾、田邊剛史¹⁾、市場奈桜¹⁾、
白井拳弥¹⁾、中川正康²⁾、松尾仁司²⁾
岐阜ハートセンター心臓リハビリテーション室¹⁾、同循環器内科²⁾

座長：山下 豊 (名古屋市立大学病院 リハビリテーション部)
横家 正樹 (美濃市立美濃病院 内科)

7 スマートウォッチを活用して身体活動量の向上や体重の減量を 図った心筋梗塞患者の1例

○都築 栄晴¹⁾、平敷 安希博²⁾、橋本 駿¹⁾、植田 郁恵¹⁾、佐藤 健二¹⁾、伊藤 直樹¹⁾、
清水 敦哉²⁾、加賀谷 斉¹⁾

国立長寿医療研究センター リハビリテーション科部¹⁾、同 循環器内科部²⁾

8 心不全管理専用アプリのアラート機能を用いることで、 心不全増悪による入院を回避できた症例

○東谷 彩¹⁾、熊谷 直人²⁾、川村 真悠¹⁾、赤塚 祐子¹⁾、岡田 恭子¹⁾、藤本 直紀³⁾、
伊藤 弘将³⁾、貝沼 大輝²⁾、仲田 智之²⁾、土肥 薫³⁾、星野 康三²⁾

医療法人永井病院 リハビリテーション科¹⁾、同 循環器科²⁾、
三重大学大学院医学系研究科 循環器・腎臓内科学³⁾

9 心不全教室に代わる患者教育の新たな取り組み

○権田 敏彰¹⁾、關野 尊久¹⁾、三浦 律子²⁾、植村 祐介³⁾

安城更生病院 リハビリテーション室¹⁾、同 看護部²⁾、同 循環器内科³⁾

10 複数回の体重測定が食事習慣の改善及び体重減少に有効であった重度肥 満を合併した大動脈弁置換術後症例

○寫田 陸人¹⁾、原 康貴¹⁾、瀧野 皓哉¹⁾、大西 歩実¹⁾、野田 香織¹⁾、宮内 咲¹⁾、
稲垣 順大²⁾、小山 裕²⁾、中川 正康³⁾、富田 伸司²⁾

岐阜ハートセンター 心臓リハビリテーション室¹⁾、同 心臓血管外科²⁾、同 循環器内科³⁾

11 心臓リハビリテーション(心リハ)患者教育用資材「心不全パンフレット」 の見直し

岡島 亜寿香

桑名市総合医療センター

座長：清水 真也(藤田医科大学 ばんだね病院 循環器内科)
廣瀬 聡彦(岐阜県総合医療センター 中央リハビリテーション部)

12 長期間の臥床後，カテコラミン製剤投与下における運動療法が有効であった重症心不全の一例

○山本 流生¹⁾、増田 貴行¹⁾、生駒 剛典²⁾、山内 克哉¹⁾

浜松医科大学 医学部附属病院 リハビリテーション部¹⁾、同 内科学第三講座 循環器内科²⁾

13 入院高齢心不全における病前ADL非自立例の特徴と身体機能低下予防効果について

○山田 高士郎¹⁾、上嶋 良²⁾、大西 洋平²⁾、幸治 隆文³⁾、谷川 高士³⁾

鈴鹿中央総合病院リハビリテーション科¹⁾、松阪中央総合病院リハビリテーションセンター²⁾、
同 心臓血管センター³⁾

14 長期点滴強心剤使用中の心不全患者に対して安全に有酸素運動を導入できた2例について

○橋本 千里¹⁾、河野 裕治^{1,2)}、小澤 祐士¹⁾、千手 佑樹²⁾、前田 寛文²⁾、船戸 優佑³⁾、築瀬 正伸³⁾、井澤 英夫³⁾、大高 洋平²⁾

藤田医科大学病院リハビリテーション部¹⁾、藤田医科大学医学部リハビリテーション医学I講座²⁾、
同 循環器内科学³⁾

15 心不全患者に対する急性期離床プログラムの有用性の検証

○小澤 祐士¹⁾、河野 裕治^{1,2)}、水谷 公司¹⁾、千手 佑樹²⁾、前田 寛文²⁾、向野 雅彦²⁾、船戸 優佑³⁾、築瀬 正伸³⁾、井澤 英夫³⁾、大高 洋平²⁾

藤田医科大学病院リハビリテーション部¹⁾、藤田医科大学医学部リハビリテーション医学I講座²⁾、
同 循環器内科学³⁾

座長：飯田 有輝（豊橋創造大学 理学療法学科）
熊谷 直人（医療法人永井病院 循環器内科）

16 高度肥満の心筋梗塞後患者に対し外来心リハ介入により運動習慣の獲得と CPX による運動処方が可能となった例

○白金 颯太、植木 美乃、村上里奈、山下 豊、板本 將吾、寺島里加子
名古屋市立大学病院

17 入院関連機能障害を呈した高齢心不全患者に対し ADL に着目して外来心臓リハビリテーションを施行した 1 例

○五十村 萌華¹⁾、平敷 安希博²⁾、橋本 駿¹⁾、植田 郁恵¹⁾、佐藤 健二¹⁾、伊藤 直樹¹⁾、清水 敦哉²⁾、加賀谷 齊¹⁾
国立長寿医療研究センターリハビリテーション科部¹⁾、同循環器内科部²⁾

18 外来での理学療法介入で低体重および運動耐容能改善を目指した急性心筋炎の 1 例

○松岡 建太¹⁾、増田 貴行¹⁾、生駒 剛典²⁾、山内 克哉¹⁾
浜松医科大学 医学部附属病院リハビリテーション部¹⁾、
浜松医科大学 内科学第三講座 循環器内科²⁾

19 心不全指導療法士の介入によって心不全ステージ D からステージ C へ改善した症例

森 麻子
中部ろうさい病院

座長：西垣 和彦 (岐阜県立下呂温泉病院 内科)
河野 裕治 (藤田医科大学病院 リハビリテーション部)

20 左室駆出率が改善した心不全患者における経時的な心肺運動負荷試験の一例報告

○奥田 陽一¹⁾、永原 康臣²⁾、黒木 優子¹⁾、伊藤 駿太¹⁾、坪田 青波¹⁾、椎野 憲二²⁾、
長坂 遼²⁾、服部 円香²⁾、瀧川 雄貴³⁾

名古屋記念病院 リハビリテーション部¹⁾、同 循環器内科²⁾、藤田医科大学病院 循環器内科³⁾

21 運動負荷時の症状は経カテーテル大動脈弁留置術患者の術後身体機能改善の関連因子となる

○小西 花奈¹⁾、河野 裕治^{1,2)}、小澤 祐士¹⁾、水谷 公司¹⁾、千手 祐樹²⁾、向野 雅彦²⁾、
村松 崇²⁾、築瀬 正伸³⁾、井澤 英夫³⁾、大高 洋平²⁾

藤田医科大学病院 リハビリテーション部¹⁾、藤田医科大学医学部 リハビリテーション 医学 I 講座²⁾、
同 循環器内科学³⁾

22 運動誘発性肺高血圧症と HFpEF における体内血液シフトの検討

○森 洋樹、佐藤 徹、荻原 義人、藤本 直紀、土肥 薫

三重大学附属病院 循環器内科

23 CPX 施行をきっかけに診断された運動誘発性僧帽弁閉鎖不全症の症例

○杉下 綺乃¹⁾、安藤 有美¹⁾、大平 佳美¹⁾、船戸 優佑²⁾、河野 裕治³⁾、築瀬 正伸²⁾、井澤 英夫²⁾

藤田医科大学病院 臨床検査部¹⁾、同 循環器内科²⁾、同 リハビリテーション部³⁾

24 栄養状態や心肺運動負荷試験の実施が急性冠症候群患者の予後に与える影響

○村上 弘明¹⁾、藤本 直紀¹⁾、伊藤 弘将¹⁾、高崎 亮宏²⁾、栗田 泰郎¹⁾、土肥 薫¹⁾

三重大学医学部附属病院¹⁾、豊橋ハートセンター²⁾

25 習慣的な運動が若年者の睡眠と認知機能に及ぼす影響

○丹羽 晴香、武田 祥也、柴田 洋綺、伊藤 温喜、野田 明子

中部大学大学院 生命健康科学研究科

座長：築瀬 正伸 (藤田医科大学 循環器内科)

渡邊 崇量 (岐阜大学医学部附属病院 循環器内科)

26 重度肺高血圧症を合併した僧帽弁狭窄症患者に対して術後の神経筋電気刺激が筋力低下の抑制に寄与した一例

○堀 将也¹⁾、原 康貴¹⁾、久世洋嗣¹⁾、瀧野 皓哉¹⁾、永井敬志¹⁾、市場 奈桜¹⁾、白井 拳弥¹⁾、田邊 剛史¹⁾、寫田 陸人¹⁾、小山 裕²⁾、稲垣 順大²⁾、澤田 幸史²⁾、尾添 公紀²⁾、中川 正康³⁾、山田 純生⁴⁾

岐阜ハートセンター 心臓リハビリテーション室¹⁾、同 心臓血管外科²⁾、同 循環器内科³⁾、愛知医科大学 循環器内科⁴⁾

27 急性大動脈解離、下肢虚血に対する緊急手術中に再灌流障害を呈し術後離床に難渋した症例

○浦野 勝太¹⁾、井田 雅之¹⁾、脇田 隆広¹⁾、鈴木 篤明¹⁾、内田 亘²⁾、矢澤 翼²⁾、碓氷 礼奈²⁾、三宅 裕史³⁾、岩瀬 三紀³⁾

トヨタ記念病院 リハビリテーション科¹⁾、同 心臓外科²⁾、同 循環器内科³⁾

28 当院における待機的開胸術に対するフレイルの及ぼす影響

○中立 大樹、山口 桂、磯和 裕真、藤野 結麻

伊勢赤十字病院医療技術部リハビリテーション課

29 大腿切断を実施した心不全症例に対する包括的心臓リハビリテーション管理が有効であった1症例

○那須田 朋佳¹⁾、河野 裕治^{1,2)}、小澤 祐士¹⁾、千手 佑樹²⁾、前田 寛文²⁾、船戸 優佑³⁾、築瀬 正伸³⁾、井澤 英夫³⁾、大高 洋平²⁾

藤田医科大学病院リハビリテーション部¹⁾、藤田医科大学医学部リハビリテーション医学I講座²⁾、同 循環器内科学³⁾

30 心房中隔欠損症術後不整脈コントロールに難渋したが心臓リハビリにより職場復帰が可能であった症例

○市場 奈桜¹⁾、原 康貴¹⁾、久世洋嗣¹⁾、瀧野 皓哉¹⁾、永井敬志¹⁾、白井 拳弥¹⁾、田邊 剛史¹⁾、堀 将也¹⁾、中川 正康²⁾、小山 裕³⁾、稲垣 順大³⁾、澤田 幸史³⁾、尾添 公紀³⁾、富田 伸司³⁾

岐阜ハートセンター 心臓リハビリテーション室¹⁾、同 循環器内科²⁾、同 心臓血管外科³⁾

座長：昆野 雄介(公立西知多総合病院 リハビリテーション部)

高尾 昌資(浜松医科大学医学部附属病院 リハビリテーション部)

31 頻回の意識下ICDショック作動後に抑うつ傾向と 心的外傷後ストレス障害を呈した患者のメンタルケアの一例

○石原真由美^{1,2)}、割田俊一郎³⁾、仲井莉加⁴⁾、尾関貴紀⁴⁾、大島功丈³⁾、矢ヶ崎裕人³⁾、
谷島進太郎³⁾、野田俊之³⁾

地方独立行政法人岐阜県総合医療センター看護部¹⁾、同 心臓リハビリテーション部²⁾、
同 循環器内科³⁾、同 臨床工学部⁴⁾

32 心臓リハビリテーションにおけるトレッキングポールの活用と 前腕骨密度への影響

○坂本恭彦¹⁾、谷口育代²⁾、神原篤志³⁾

畿内会 岡波総合病院 リハビリテーション科¹⁾、同 看護部²⁾、同 心臓血管外科³⁾

33 入院前の身体フレイルは高齢心不全患者の入院中の身体機能改善の 阻害因子となる

○杉田紗弥¹⁾、河野裕治^{1,2)}、小澤祐士¹⁾、水谷公司¹⁾、千手佑樹²⁾、前田寛文²⁾、
向野雅彦²⁾、船戸優佑³⁾、築瀬正伸³⁾、井澤英夫³⁾、大高洋平²⁾

藤田医科大学病院リハビリテーション部¹⁾、藤田医科大学医学部リハビリテーション医学I講座²⁾、
同 循環器内科学³⁾

34 CPX 後の作業療法介入によって効果を得た一例 ～ COPM を用いて～

○八原大輔¹⁾、永島和雄¹⁾、上嶋 良¹⁾、大西洋平¹⁾、伊藤篤史¹⁾、富永英里¹⁾、
宇野拳太²⁾、平松大典²⁾、塩地弘和²⁾、佐藤雄一²⁾、後藤 至²⁾、杉浦伸也²⁾、
幸治隆文²⁾、谷川高士²⁾

松阪中央総合病院 リハビリテーションセンター¹⁾、松阪中央総合病院 循環器内科²⁾

座長：柴田 賢一(名古屋ハートセンター リハビリテーション部)
清水 美帆(三重大学医学部附属病院 リハビリテーション部)

35 当院における心不全患者の訪問リハビリ導入への取り組み

○塩野谷 優太、本多 成史、水藤 亘祐、鈴木 康友、犬飼 高平、細野 博敬
JA 愛知厚生連 渥美病院

36 心臓リハビリテーションの施設基準を満たさない地域病院における多職種チームの取り組み

○富岡 大資^{1,2,3,4,5)}、野殿 裕子²⁾、松森 歩美²⁾、澤村 奈津子²⁾、竹内 亮介³⁾、的場 光穂³⁾、
中井 紘子⁴⁾、森本 亮太⁵⁾
伊賀市立上野総合市民病院 循環器内科¹⁾、同 看護部²⁾、同 リハビリテーション課³⁾、
同 栄養管理課⁴⁾、同 薬剤課⁵⁾

37 高齢患者に対す地域包括多機能病院の心臓リハビリテーション

○松田 真由¹⁾、松本 京子²⁾、椿原 恭代¹⁾、鈴木 麻友¹⁾、向井 健太郎¹⁾
愛知医科大学メディカルセンター¹⁾、愛知医科大学病院²⁾

38 心不全カンファレンスシートを利用した当院の多職種連携

○岡田 恭子¹⁾、熊谷 直人²⁾、東谷 彩¹⁾、赤塚 裕子¹⁾、川村 真悠¹⁾、貝沼 大輝²⁾、
仲田 智之²⁾、星野 康三²⁾
医療法人 永井病院 リハビリテーション科¹⁾、同 循環器科²⁾

39 当院における心不全チームの取り組みについて

○伊神 明良¹⁾、渡邊 清孝¹⁾、山田 高士郎²⁾、辻 聡浩²⁾、石原 敬章³⁾、太田 覚史¹⁾、
北村 哲也¹⁾
鈴鹿中央総合病院 循環器内科¹⁾、同 リハビリテーション科²⁾、同 看護部³⁾



日本心臓リハビリテーション学会 第8回東海支部地方会



共催セミナー〔ランチョンセミナー1〕

座長

藤本 直紀 先生

三重大学大学院医学系研究科
循環器・腎臓内科学 講師



講演

山野 哲弘 先生

京都府立医科大学附属病院
臨床検査部 / 循環器内科 学内講師



『ATTR心アミロイドーシス診療の現状』

日時

2022年 12月 3日 (土曜日)

11:50~12:40 (質疑応答含)

会場名

第1会場〔ウインクあいち 10F 会議室1001〕

〒450-0002 | 愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38

TEL : 052-571-6131

セミナー名

ランチョンセミナー1

席数 | 140席

開催形式 : 現地開催

※詳しくは、学会ホームページをご参照下さいませ。
ホームページ : <https://www.jacr.jp/region/tokai8/>

共催 : 日本心臓リハビリテーション学会 第8回東海支部地方会
ファイザー株式会社

VYN221014B 2022年10月作成
作成者 : ファイザー株式会社



日本心臓リハビリテーション学会 第8回東海支部地方会

ランチョンセミナー②

日時 2022年12月3日(土)
11:50~12:40

会場 第2会場
(ウインクあいち 10F 会議室1002)
名古屋市中村区名駅4丁目4-38
TEL: 052-571-6131



PROGRAM

ベリキューボが活きる 心不全の心臓リハビリテーション

座長

土肥 薫 先生

三重大学大学院医学系研究科 循環器・腎臓内科学 教授

演者

安達 仁 先生

群馬県立心臓血管センター 副院長

ご記入いただいた個人情報は、バイエル薬品および日本心臓リハビリテーション学会第8回東海支部地方会が取得し、主に本セミナーの運営・管理に使用します。バイエル薬品におけるその他の利用目的については、バイエル薬品の個人情報保護方針の「個人情報の利用目的」をご参照ください。<https://www.pharma.bayer.jp/ja/personal>

共催 | 日本心臓リハビリテーション学会 第8回東海支部地方会
バイエル薬品株式会社

PP-VER-JP-0805-08-01
MTG22-00321144-20221003

日本心臓リハビリテーション学会



第8回東海支部地方会

コーヒーブレイクセミナー

日時

2022年 **12**月 **3**日 (土) 14:50~15:30

会場

第1会場

ウインクあいち 10F 会議室1001
(愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38 / 052-571-6131)

プログラム

座長

鈴鹿中央総合病院 院長 **北村 哲也** 先生

「運動負荷で心不全の病態に迫る - 血圧管理の重要性を含めて -」

演者

名古屋市立大学大学院医学研究科 循環器内科学

教授 **瀬尾 由広** 先生

当日ご記憶いただきましたご施設名、ご芳名は、医薬品の適正使用情報および医学・薬学に関する情報提供のために
利用させていただいております。何卒、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

共催 日本心臓リハビリテーション学会 第8回東海支部地方会 第一三共株式会社